

IV ちょうふの里

第1 総括

1 食事提供業務の委託方式から直営方式への切り替え

ちょうふの里では、開設以来食事提供を委託方式により行っていた。今年度委託業者から年度末での撤退の予告が年末に示された。4月以降の食事提供をどのように引き継ぐか、現委託業者の継続、他委託業者の選定等方法を検討したが、解決に至らず、次年度から直営方式による食事の提供を決定した。

1月中旬から栄養士及び調理員の募集を行い、3月末までに新たに正規職員として栄養士1人、調理員5人、臨時職員として調理員15人を採用内定とした。新年度の体制として、現行の栄養士の正規職員2人に加え、合計23人の体制を整えることができた。引き継ぎや関係機関への届け出等新年度へ円滑に繋げられるよう準備を行った。

2 人材確保と育成

年度当初、介護職及び看護職ともに十分な体制でスタートをきることができた。介護職においては、ここ数年養成校の新規卒業者が採用に結びついており、定着して業務を行っている。離職者も少なく、年間を通して安定した運営ができる体制がとれている。

採用となった養成校の新規卒業者に関しては、母校に近況の報告も兼ねて継続的な採用に繋げるため次年度の募集案内等を行った。養成校の担当者との情報の交換や施設の見学会を開催し、関わりを維持している。

3 安心、安全のための施設整備

昨年の火災報知設備、一昨年の空調設備と大規模の改修を行っている。中でも、消防設備に関しては、人命に直結するものであり、十分な機能を発揮できるよう心掛けている。毎月行っている消防訓練では、時折、非常用放送設備の不具合が窺え、市と連携をとり、対応してきた。非常用放送設備に関しては、最優先で更新を依頼していく。その他の設備に関しても、市と協議し、環境整備を進めていく。

第2 経営実績

1 目標に対する実績

(単位：%)

事業名	目標値	平成29年度 実績	平成28年度 実績
介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）利用率	96	95.2	94.3
短期入所生活介護（ショートステイ）利用率	100	85.7	89.4

通所介護 事業	通所介護	利用率	87.0	77.5	77.4
	認知症対応型通所介護	利用率	80.0	73.3	71.6
居宅介護 支援事業	ケアプラン作成数(月)		141件	114.9件	120.0件
	予防プラン作成数(月)		10件	9.8件	11.8件
訪問介護 事業	サービス提供数(時間/月)		610時間	461.6時間	497.1時間
	障がいサービス提供数(時間/月)		70時間	44.0時間	48.8時間

第3 課別事業報告

1 管理課

(1) 重点事項への取組

ア 事故防止及び感染症予防への対策

事故防止や感染症予防など施設にとって重要な事項については、施設内研修において全職員が受講できるよう体制をとった。開催時期に関しては、感染症の流行時期を意識して、流行の始まる前に研修を行った。

イ 多様な状態の利用者に対する食事サービスの充実

利用者の状態に合わせた食事については、近年多岐にわたる食種への対応が必要となっている。療養食に関しては、16人へ提供している。

また、口から食事が食べられる楽しみを得られるように、歯科医師、医師など多職種との連携を図り、少しでも長く経口摂取できるよう努めた。その結果、2人に経口維持加算を算定することができた。イベント食については、行事食25回、選択食5回、バイキング食4回実施し、好評であった。

ウ 災害に対する備えの充実

災害に備えて、毎月消防訓練を実施している。訓練では、避難誘導や消火訓練はもとより、夜間や震災を想定したものも実施した。

また、消防設備の使用方法を確認するとともに、正常稼働の確認も行い、改修や調整が必要な場合は市と協議し、適正な整備に努めた。

エ 人材の確保の取組

毎年行っている養成校の訪問に関しては、定着してきている。特に、採用実績のある学校等に関しては、採用後の職員の状況も報告しつつ、訪問を行っている。採用実績があることから、後輩の就職希望に繋がっていることも安定した人材の確保に繋がっている。

オ 人材の育成

福祉人材養成機関の講師を受託に関しては2年目となり、担当した職員も講師としての役割を実感することができた。受講者から問い合わせがあった際、ちょうふの里の名称が記憶に残ったという声が聞かれた。

カ 実習生の受入

例年受け入れを行っている養成校に関しては定着しており、一部採用に繋がっている。廃校や定員数縮小する学校が見られる中、実習を希望する養成校に対しては可能な限り受け入れを行っている。

キ 地域の拠点施設としての役割

夏の風物詩となっているふうりん祭りに関しては、地域の方々のボランティアに加え、近隣の大学などからもボランティアの参加があった。

また、地域の老人会が年に2回清掃活動を実施しており、地域団体の活動の場となっている。

(2) 実績報告

ア 体系別研修

体系別の研修状況は、次のとおりである。

なお、内容欄の数字は「イ 研修の状況」の「No.」を表している。

体 系		内 容	回 数
一般研修	新任職員研修	4, 73	2
	現任職員研修	10, 16, 17, 66, 78, 87	6
	中堅・副主任研修	24, 33, 72	3
専門研修	看護師研修	15, 38, 46, 62, 67, 69, 74, 79, 81	9
	栄養士研修	5, 7, 9, 11, 26, 27, 30, 31, 43, 51, 56, 58, 61, 71, 82, 85	16
	介護職員研修	1, 2, 3, 8, 13, 14, 18, 19, 20, 22, 28, 35, 36, 41, 42, 44, 47, 49, 50, 53, 54, 63, 64, 68, 70, 76, 80	27
	介護支援専門員研修	12, 39, 45, 59	4
	生活相談員研修	21, 29, 40, 48, 60, 84, 86	7
	機能訓練指導員研修	52	1
	主任研修	32, 55, 65, 77, 83	5
	課長研修	6, 23, 25, 34, 37, 57, 75	7
職場研修	施設内研修	① 第1回「応急救護とAED操作」(講師 調布消防署員) 7月19日(水) 参加者 57人 ② 第2回「応急救護とAED操作」(講師 調布消防署員) 7月20日(木) 参加者 31人 ③ 第1回「見てわかる改正均等法のセクハラ対策 他」 (DVD鑑賞) 8月23日(水) 参加者 40人 ④ 第2回「見てわかる改正均等法のセクハラ対策 他」 (DVD鑑賞) 8月29日(火) 参加者 42人	9

体 系	内 容	回 数
	⑤ 第1回「痰の吸引とバイタルサインチェック」(職員講師) 9月27日(木) 参加者 31人 ⑥ 第2回「痰の吸引とバイタルサインチェック」(職員講師) 11月22日(水) 参加者 51人 ⑦ 「褥瘡予防を考えたスキンケアの実践」 (講師 榊リブドゥコーポレーション) 12月13日(水) 参加者 43人 ⑧ 「感染症の基礎知識」(DVD鑑賞) 2月21日(水) 参加者 40人 ⑨ 「交通安全教室(自転車・自動車の運転マナーについて)」 (講師 調布警察署) 3月6日(火) 参加者 65人	
福祉課内研修、勉強会	① 「排泄介助」「緊急時対応」 5月15日(月) 参加者 19人 ② 「認知症の理解と事例検討」 9月4日(月) 参加者 15人 ③ 感染症予防について(同内容で12回実施) 11月6日～12月13日 参加者 61人 ④ 「青山式移動移乗の介助」 3月5日(月) 参加者 17人	15
ショート研修、勉強会(ショートステイ担当内研修)	① 爪切り介助について 5月18日(木) 参加者 11人 ② リスクマネジメントについて 8月18日(金) 参加者 13人 ③ 感染症対策・予防方法について 11月17日(金) 参加者 14人 ④ 図上消防訓練 2月16日(金) 参加者 11人	4
デイサービス研修、勉強会(デイサービス担当内研修)	① 爪切り実践研修 5月19日(金) 参加者 18人 ② クレーム対応について 10月20日(金) 参加者 6人 ③ 感染症予防研修(嘔吐物の正しい処理方法) 第1回 10月20日(金) 参加者 21人 第2回 10月27日(金) 参加者 7人	4

体 系		内 容	回 数
地域支援課：訪問介護事業所研修、勉強会	① ケース報告・ケース検討会（グループワーク） 5月17日（水） 参加者 12人	5	
	② ケース報告・ケース検討会（グループワーク） 8月16日（水） 参加者 11人		
	③ ケース報告・介護演習 （車いす操作・杖歩行の介助方法） 9月20日（水） 参加者 12人		
	④ ケース報告・事例検討 （ベッド上での着替え、シーツ交換の介助方法） 10月11日（水） 参加者 13人		
	⑤ ケース報告・感染症研修（手洗いの演習） 1月17日（水） 参加者 8人		
職場研修参加者合計		669人	37回
外部研修参加及び施設内研修開催合計			124回

イ 研修の状況

No	月 日	内 容	主 催	人 数	延べ
1	4月6・7日	認知症介護研修公開講座（平成29年度 第1回）	東京都福祉人材センター	1	2
2	4月19日	介護カフェ（介護技術勉強会）	調布ゆうあい福祉公社	1	1
3	5月10日	介護職のための病気と薬の基礎講座	お茶の水ケアサービス学院	1	1
4	5月16日	デイサービス新任職員研修	東京都社会福祉協議会	1	1
5	6月7日	平成29年度栄養管理講習会（第2回）	東京都福祉人材センター	1	1
6	6月7日	平成29年度全国安全週間説明会	三鷹労働基準監督署	1	1
7	6月26日	Tokyo EAT 食の情報共有研修会（みんなでいっしょに食べることを考える会）	日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック	2	2
8	6月27日	言いたいこと、言えてますか？	雲母きらら書房	1	1
9	7月4日	平成29年度 第1回 Tokyo EAT 研修会（第1報）	日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック	2	2
10	7月6・7日	東京都認知症介護研修「公開講座」	東京都福祉人材センター	2	4
11	7月7日	多職種で取り組む！認知症の方への食支援	東京都社会福祉協議会	1	1
12	7月18・19日	平成29年度高齢者福祉施設におけるチームマネジメントを学ぶ研修会	東京都福祉人材センター	1	2

No	月 日	内 容	主 催	人 数	延べ
13	7月18日	平成29年度 東京都認知症介護基礎研修(第10回)	東京都福祉人材センター	1	1
14	7月19日	平成29年度 東京都認知症介護基礎研修(第12回)	東京都福祉人材センター	1	1
15	7月26日	急変時の看護	東京都ナースプラザ	1	1
16	7月26日	介護報酬請求事務に関する研修会(基礎編)	東京都社会福祉協議会	1	1
17	7月26日	転倒・転落事故防止リスクアセスメント	東京都ナースプラザ	1	1
18	8月6日	楽ワザ介護	日本楽ワザ介護協会	3	3
19	8月7日	高齢者福祉施設における“トラブル対応”について学ぶ研修会	東京都社会福祉協議会	1	1
20	8月16日	平成29年度東京都高齢者権利擁護推進事業「介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修(居宅系)第1回	東京都福祉保健財団	1	1
21	8月22日	その記録、本当に必要ですか?	雲母きらら書房	1	1
22	8月24日	平成29年度 第9・10回東京都認知症介護実践者研修公開講座	東京都福祉人材センター	1	2
23	8月25日	自転車安全利用 TOKYO セミナー	東京都青少年・治安対策本部	1	1
24	9月4・5日	キャリアパス対応生涯研修課程《福祉職員職務階層別研修》「中堅職員研修」	東京都福祉人材センター	1	2
25	9月8日	平成29年度全国労働衛生週間説明会	三鷹労働基準監督署	1	1
26	9月11日	多摩府中給食施設協議会 定例会	多摩府中給食施設協議会	1	1
27	9月21日	平成29年度日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック摂食嚥下研修会(第2報)	日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック	2	2
28	9月23日	ケアレク学会 in 横浜	日本通所ケア研究会	1	1
29	9月26日	クレームから逃げていませんか?	雲母きらら書房	1	1
30	9月28日	多摩府中給食施設協議会 定例会	多摩府中給食施設協議会	1	1
31	10月2日	平成29年度栄養管理講習会	多摩府中給食施設協議会	1	1
32	10月7日	平成29年度東京都主任介護支援専門員研修	東京都福祉保健局	1	12
33	10月11・12日	平成29年度 中堅職員重点テーマ強化研修～コミュニケーション・業務標準と OJT を中心に～	東京都福祉人材センター	1	2

No	月 日	内 容	主 催	人 数	延べ
34	10月11日	介護労働者の労務管理に関する説明会	東京労働局	1	1
35	10月15日	合理的配慮のリアリティ～障害者の社会復帰と障害理解を考える～	調布市障害者地域自立支援協議会	1	1
36	10月16日	平成29年度医療安全支援研修会・連絡会	東京都多摩府中保健所	1	1
37	10月17日	平成29年度東京都老人福祉施設等感染症対策指導者養成研修	東京都福祉保健局	1	1
38	10月18日	感染管理	東京都ナースプラザ	1	1
39	10月23・24日	平成29年度地域包括支援センター職員基礎研修	長寿社会開発センター	1	2
40	10月24日	多職種間、こじれていませんか？	雲母きらら書房	1	1
41	10月26日	平成29年度 東京都認知症介護基礎研修(第13回)	東京都福祉人材センター	1	1
42	11月1日	平成29年度 東京都認知症介護基礎研修(第17回)	東京都福祉人材センター	1	1
43	11月1日	経口維持に関する研修会	東京都社会福祉協議会	1	1
44	11月4・18日	失語症の人と話そう	NPO法人 和音事務所	2	4
45	11月10日	利用者支援のためのアセスメントを考える	東京都社会福祉協議会	1	1
46	11月13日	高齢者介護施設におけるリスクマネジメント	東京都ナースプラザ	1	1
47	11月14・15日	第74回全国老人福祉施設大会(福島大会)	全国老人福祉施設協議会	2	4
48	11月15日	平成29年度「ショートステイ情報交換会」	東京都社会福祉協議会	1	1
49	11月15日	平成29年度 高齢者福祉施設におけるチームマネジメントを学ぶ会 フォローアップ研修	東京都福祉人材センター	1	1
50	11月16・17日	第4回認知症介護研修公開講座	東京都社会福祉協議会	1	2
51	11月17日	平成29年度 第3回日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック摂食嚥下研修会(第3回)	日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック	3	3
52	11月17日	介護現場で行うケアとリハビリテーションの理念に基づく機能訓練の考え方と実践～多職種で連携して取り組むための手法を考えよう！～	東京都福祉人材センター研究室	1	2
53	11月17日	介護技術等に関する講習会(介護職員による喀痰吸引等の制度・研修を含めた介護職員のキャリアアップについて)	介護労働安定センター	1	1

No	月 日	内 容	主 催	人 数	延べ
54	11月21日	「不適切なケアからみつめる施設における虐待ゼロへの実践」	東京都社会福祉協議会	1	1
55	11月27日	平成29年度認知症介護指導者養成研修	東京都福祉保健局	1	20
56	11月27日	平成29年度栄養管理講習会	多摩府中給食施設協議会	1	1
57	11月28日	人手不足、何が足りないですか？	雲母きらら書房	1	1
58	11月28日	多摩府中給食施設協議会勉強会	多摩府中給食施設協議会	1	1
59	11月29日	難病患者療養支援事業講演会「専門医から学ぶ神経難病の基礎知識と治療の考え方～患者・家族の意思決定を支えるために～」	東京都多摩府中保健所	1	1
60	12月4日	在宅医療勉強会 フレイル予防は「総合知」によるまちづくり—健康長寿の勝負の分かれ道—	東京都	1	1
61	12月7日	平成29年度 摂食嚥下機能支援連絡会シンポジウム	東京都多摩府中保健所	3	3
62	12月10日	高齢者の急変予防と対応 高齢者急変のサインを読む	関西看護ケア研究会	1	1
63	12月14・15日	平成29年度介護職員スキルアップ研修～医療ニーズを見逃さないケアを学ぶ～	東京都多摩府中保健所	3	3
64	12月18日	平成29年度 摂食嚥下機能支援基盤整備 摂食嚥下機能支援研修会	東京都多摩府中保健所	1	1
65	12月24日～3月24日	平成29年度第Ⅱ期 東京都主任介護支援専門員更新研修	東京都福祉保健局	1	8
66	1月11・12日	平成29年度東京都地域包括支援センター職員研修（現任者研修）	東京都福祉保健財団	1	2
67	1月12日	高齢者のスキンケアと褥瘡ケア	東京都ナースプラザ	1	1
68	1月17日	チームで取り組む褥瘡対策・感染対策～医療安全の視点から～	メディカルケアサポートセミナー	1	1
69	1月19日	リンパ浮腫のケア	東京都ナースプラザ	1	1
70	1月24日	人間学的 認知症介護 入門	雲母きらら書房	2	2
71	2月7日	平成29年度栄養管理講習会（第11回）	東京都多摩府中保健所	2	2
72	2月7日	平成29年度 高齢者福祉施設におけるチームマネジメントを学ぶ研修会 グレードアップ研修	東京都福祉人材センター	1	1
73	2月7日	普通救命講習	調布消防署	3	3

No	月 日	内 容	主 催	人 数	延べ
74	2月9日	摂食・嚥下障害の看護	東京都ナースプラザ	1	1
75	2月15日	平成29年度レジオネラ対策講習会	東京都多摩府中保健所	1	1
76	2月17日	座位が変われば暮らしが変わる！～重度化する利用者に対して不適切なケアによる変形・拘縮をなくそう！～	東京都社会福祉協議会	2	2
77	2月17・18日	社会福祉士実習指導者講習会	高崎福祉医療カレッジ	1	2
78	2月21日	介護報酬請求事務に関する研修会（応用編）	東京都社会福祉協議会	2	2
79	2月21日	感染管理	東京都ナースプラザ	1	1
80	2月22日	平成29年度 東京都認知症介護基礎研修（第19・20回）	東京都福祉保健局	2	2
81	2月23日	認知症高齢者のケア	東京都ナースプラザ	1	1
82	3月12日	多摩府中給食施設協議会勉強会	多摩府中給食施設協議会	2	2
83	3月13日	介護報酬改定と通所介護の今後を考える	東京都社会福祉協議会	1	1
84	3月16日	平成30年W改定直前！！押さえておくべきポイント！～我々に求められるミッションとは？～	東京都社会福祉協議会	1	1
85	3月21日	(公社)東京都栄養士会医療事業部報告会&スキルアップセミナー	(公社)東京都栄養士会	1	1
86	3月27日	第6回 懇話会	青木病院	6	6
87	3月29日	平成30年4月介護報酬改定等に伴う事業者説明会	東京都国民健康保険団体連合会	2	2
研修参加実人数合計116人、延べ参加人数合計167人					

ウ 実習生等の受入状況

受け入れの延べ人数は、355人と昨年度の387人より減少した。介護福祉士資格取得目的の実習生などでは、受け入れ校が定着してきている。職場体験では、中学校以外の新たな受け入れも行った。

(単位：人)

学 校 名 等	実 習 目 的	実 習 先			合 計
		特養	デイ・シ	包・居・訪	
都立野津田高等学校	介護福祉士	40			40
学校法人大東学園世田谷福祉専門学校	介護福祉士	37			37
公益財団法人東京YMCA医療福祉専門学校	介護福祉士	62			62
学校法人日本医療大学専門学校日本福祉学院	社会福祉士	22	16	8	46

学校名等	実習目的	実習先			合計
		特養	デイ・シ	包・居・訪	
調布市高齢者支援室	社会福祉士	3	6		9
都立多摩職業能力開発センター府中校	介護職員新任者研修	6	6		12
調布市福祉人材育成センター	介護職員新任者研修			4	4
杏林大学保健学部看護学科	公衆衛生		10		10
杏林大学医学部付属看護専門学校	在宅看護			4	4
学校法人慈恵大学慈恵第三看護専門学校	在宅看護			2	2
三菱東京UFJ銀行	ボランティア体験		8		8
東京都社会福祉協議会(教員免許取得)	介護等体験		15		15
京王バス株式会社	介護等体験		36		36
東京都福祉保健財団	介護支援専門員実務研修			9	9
財団法人上野学園大学短期大学部	介護等体験		17		17
調布市立調布中学校	職場体験		20		20
調布市立第六中学校	職場体験		15		15
都立府中けやきの森学園	職場体験	2	3		5
東京都社会福祉協議会	職場体験	3	1		4
合計		175	153	27	355

※デイ・シ＝デイサービス及びショートステイ 包＝地域包括支援センター
訪＝訪問介護事業所 居＝居宅介護支援事業所

エ ボランティア等の状況

ボランティア活動への感謝の気持ちとして、毎年「ボランティア懇親会」を実施している。今年度は、新規に開設された近隣の「府中市立学校給食センター」の見学会を行った。見学の最後には、当日中学校給食に提供された昼食を試食した。

なお、当日は3年継続して活動している方6人、5年継続して活動している方3人への感謝状の贈呈も行った。

(単位：人)

活動団体・内容等		活動先			合計
		特養	デイ・ショート	施設全体	
クラ ブ・ 技 術 指 導	書道	24	122		146
	詩吟	40			40
	編み物		135		135

活動団体・内容等	活 動 先			合計
	特 養	デイ・ショート	施設全体	
音楽リハビリ	24	95		119
籐 細 工		46		46
絵 手 紙		94		94
陶 芸		117		117
小 計	88	609		697
生活全般				
リネン類整理	388			388
諸活動	傾 聴	32		32
	朗 読	12		12
	マ ッ サ ー ジ	24		24
	ド ッ グ セ ラ ピ ー	9	52	61
	紙 芝 居	12		12
	活動支援(活動の準備等)		133	133
	新 年 会	1	13	14
	バ ス ハ イ ク		44	44
	音 楽 会	4	24	28
	サマーボランティア		2	2
	ふうりん祭り			102
	施設周り清掃			29
	ホーム喫茶			34
	歌謡ショー		1	1
小 計	94	269	167	530
合 計	570	878	167	1,615

※1・ふうりん祭りは、警察学校の43人(2交代)、警視庁第七機動隊10人を含む。

- ・ 上記のボランティアの他に、イベント(調布中学生の和太鼓・タヒチアングダンス)の協力があった。
- ・ 「サマーボランティア」で、ふうりん祭りの手伝いをした者が1人あり、サマーボランティアとして数えた。

※2 老人クラブ「富士見天寿会」による「施設周り清掃」は、年2回定例の清掃活動として実施された。

※3 「ふじみ手芸とおしゃべりサロン」は継続し、特注で食事用エプロン等の製作に

対応していただいている。活動場所が地域センターのため、正確な活動人数の把握が難しく、上記の表にカウントしていない。

オ 特別養護老人ホーム 利用食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	2,817	2,825	2,824	10	2,837	2,840	2,841
5	2,949	2,944	2,948	11	2,856	2,854	2,855
6	2,793	2,794	2,791	12	2,877	2,879	2,880
7	2,907	2,905	2,907	1	2,978	2,979	2,980
8	2,836	2,839	2,938	2	2,727	2,728	2,721
9	2,835	2,835	2,836	3	2,824	2,830	2,828
				合計	34,236	34,252	34,349
				1日平均	93.8	93.8	94.1

カ 単独型短期入所生活介護 利用食数

月	朝食	昼食	夕食	月	朝食	昼食	夕食
4	442	372	442	10	419	337	418
5	441	372	439	11	459	380	462
6	425	347	425	12	480	391	479
7	475	396	478	1	451	373	446
8	477	406	474	2	414	344	412
9	401	328	404	3	439	363	439
				合計	5,323	4,409	5,318
				1日平均	14.6	12.1	14.6

キ 行事食献立一覧 (特=特養、シ=ショートステイ、デ=デイサービス)

月 日	行事名	課名	献立内容
4月 8日	お花見献立	特・シ・デ	桜寿司、天ぶら、菜の花の辛子醤油和え、うどと人参の炒め、おすまし、おやつ(桜餅)
15日	選択メニュー	特・シ	オムライスまたはラーメンから利用者が選択
29日	お誕生日ケーキの日	特	バイキング形式(ケーキ2種)
5月 5日	端午の節句膳	特・シ・デ	ちらし寿司、そら豆のかき揚げ、若竹煮、沢煮椀、果物、(おやつ:上生菓子(こいのぼり))
10日	ホーム喫茶	特・シ・デ	ケーキ2種類、練り切り、コッパソ、コーヒー、抹茶、クリームソーダ、オレンジジュース

月 日	行 事 名	課 名	献 立 内 容
1 4 日 2 7 日	母の日献立 お誕生日ケーキの日	特・シ 特	3色ご飯、南瓜サラダ、ほうれん草のスープ、苺のホイップ添え バイキング形式(ケーキ2種)
6 月 9 日 1 6 日 3 0 日	選択メニュー バイキング お誕生日ケーキの日	特・シ 特・シ 特	牛井又は味噌ラーメンから利用者が選択 巻きすしバイキング バイキング形式(ケーキ2種)
7 月 7 日 8 日 2 3 日 2 5 日 3 0 日	七夕献立 ホーム喫茶 ふうりん祭り 土用丑の日 お誕生日ケーキの日	特・シ・デ 特・シ・デ 特・シ・デ 特	七夕そうめん、天ぷら、冬瓜のかにあん、果物、(おやつ:水まんじゅう・練りきり) ケーキ2種類、練り切り、冷やし中華、コーヒー、冷抹茶、パイ ンジュース、トロピカルティー 模擬店(やさそば・小籠包・ハッシュドポテト・マスカットゼリ ー) うな井 バイキング形式(ケーキ2種)
8 月 5 日 1 5 日 2 6 日	選択メニュー 終戦記念日 お誕生日ケーキの日	特・シ 特・シ・デ 特	天井または冷やし中華から利用者が選択 すいとん バイキング形式(ケーキ2種)
9 月 1 5 日 1 7 日 14.15.16.日 2 0 日 2 9 日	お楽しみおやつ 敬老祝い膳 敬老祝い膳 お彼岸 お誕生日ケーキの日	特 特・シ シ デ 特・シ・デ 特	祝いまんじゅう 赤飯、天ぷら、煮物、和え物、おすまし(松花堂弁当) 間食 祝まんじゅう 赤飯、天ぷら、煮物、和え物、おすまし(松花堂弁当) 間食 祝まんじゅう おはぎバイキング(やわらかおはぎ・あん・ごま・きなこ) バイキング形式(ケーキ2種)
1 0 月 6 日 1 3 日 2 7 日	選択メニュー 秋の味覚バイキング お誕生日ケーキの日	特・シ 特・シ 特	うな井またはほうとうから利用者が選択 栗おこわ、松茸ごはん、巨峰、ふかし芋、イチジク、麵 バイキング形式(ケーキ2種)
11 月 8~10 日 1 0 日 1 3 日 2 9 日	バイキング 選択メニュー ホーム喫茶 お誕生日ケーキの日	デ 特・シ 特・シ・デ 特	新米おにぎりバイキング 海鮮丼または鍋焼きうどんから利用者が選択 モンブラン、ムース、どらやき、クロックロール、コーヒー、抹 茶、りんごジュース、コア バイキング形式(ケーキ2種)
1 2 月 1 7 日 2 2 日 2 4 日 2 5 日	冬至メニュー クリスマス会 クリスマス会 クリスマスメニュー	特・シ・デ シ 特 特・シ・デ	昼食ほうとう(おやつ:ゆず饅頭)、(夕食)かぼちゃのいとこ 煮 X'MASケーキとシャンメリー X'MASケーキとシャンメリー

月 日	行 事 名	課 名	献 立 内 容
26日 31日	お誕生日ケーキの日 年越し	デ 特 特・シ	(昼) 鶏肉の照り焼き、(おやつ:ショートケーキ)、(夕) ミートローフ X 'MAS ケーキとシャンメリー バイキング形式(ケーキ2種) 年越しそば(海老天そば)
1月 1日 7日 8日 10日 11日 15日 26日	元旦 七草 新年会 ホーム喫茶 鏡開き 小豆粥 お誕生日ケーキの日	特・シ 特・シ 特 特・シ・デ デ・シ 特・シ 特	おせち料理、雑煮、(おやつ:ねりきり) 七草粥 新年会献立 昼食 ちらし寿司、天ぷら ケーキ2種類、練りきり、たこやき、コーヒー、抹茶、甘酒、カルピスソーダ おしるこ 小豆粥 バイキング形式(ケーキ2種)
2月 3日 9日 23日	節分献立 握り寿司バケツ お誕生日ケーキの日	特・シ・デ 特・シ・デ 特	(昼) いわしのゆず香焼き、(おやつ:練りきり「鬼」)、(夕) 恵方巻きといなり寿司 まぐろ・はまち・玉子・いなり寿司・サーモン・あなご バイキング形式(ケーキ2種、)
3月 3日 9日 21日 31日	ひな祭り献立 ホーム喫茶 お彼岸 お誕生日ケーキの日	特・シ・デ 特・シ・デ 特・シ・デ 特・シ・デ	ちらし寿司、刺身 ケーキ2種類、焼切り、肉まん、コーヒー、抹茶、いちごオーレ、甘酒 ぼたもちバイキング(やわらかぼたもち・あん・ごま・きなこ) バイキング形式(ケーキ2種、)

※ 朝食は、「ごはん食」か「パン食」の選択メニューを毎日行っている。

2 福祉課

(1) 重点事項への取組

ア 利用者の尊厳の尊重

ケアプランの説明や家族カンファレンスをわかりやすく丁寧に行い、利用者の生活の様子や心身の状況など家族との共通理解を深め、利用者一人ひとりが「その人らしい」生活が送れるような支援に繋げることができた。

利用者個々の「今だからできること」を大切にしながら日々のケアに取り組み、利用者に寄り添う介護の実践に努めた。

利用者の高齢化や重度化と共にその家族も高齢となり、家族への支援が必要なケースも見受けられた。

イ 利用者支援の充実

ウインドウショッピングや甘味処への外出など、市内近郊を中心に戸外活

動を積極的に行った。

また、レクリエーションにはおやつ作り等のプログラムを取り入れ、日々の生活の中に刺激や変化のある余暇活動を実施することができた。その他にもボランティアによる茶話会や演奏会も引き続き行い、利用者を主体とした生活環境づくりに努めた。

理学療法士、作業療法士及び機能訓練指導員による個別訓練の他、朝の集団体操やレクリエーションを多職種協働で行い、日常生活の中に体を動かす機会を設けながら、身体機能の維持や生活の活性化を心掛けた。

毎年注視しているインフルエンザやノロウイルス等の感染症は幸い見られなかったものの、疥癬の罹患や結核接触者への対応に大変苦慮した。このことを教訓に感染症対応マニュアルの刷新を行い、感染症予防や早期発見、正しい対応の手引きとして活用することができた。

ウ 職員・人材育成の充実

介護職員は階層別研修や認知症介護研修、トランスファーやシーティング研修へ、看護職員は高齢者の急変予防と対応や褥瘡ケア研修などへ参加することで、情報収集、専門的知識及び技術向上に努めた。

社会福祉士や介護福祉士の介護実習や体験学習の受け入れ、就労支援事業にも継続的に取り組むとともに、東京都社会福祉協議会が実施する「福祉職場におけるインターンシップ事業」にもエントリーし、福祉を専門に学んでいない大学生等へ福祉職場に対する関心を高めてもらえるような取り組みも行った。

エ 利用者家族との連携

利用者の生活の様子について家族と情報共有が図れるよう、家族会や面会時、各種行事等の機会を活用して説明することで、共通理解を図ることができた。特に新規利用者を中心に家族カンファレンスを実施、多職種で参画し家族の様々な思いに触れ、介護のみならず医療や看護、生活訓練などの相談が寄せられ、利用者家族の施設に対する期待の大きさを感じることができた。

ふうりん祭りや敬老会といった大きな行事以外にも、利用者が楽しく参加できる行事の企画、実施を進めたが、利用者の健康状態を鑑みて運動会等は規模を縮小しての実施となり、家族の参加人数も減少する結果となった。しかし、年忘れ会（餅つき）をクリスマス会に趣を変え実施することで、多くの利用者が無理なく参加することができた。

なお、平成30年度の介護保険改正について、家族会や面会など通じて説明の機会を設け、必要な手続きなど円滑に進められるよう取り組んでいく。

(2) 実績報告（特別養護老人ホーム：利用定員100人）

ア 年齢別利用者状況

70歳以上75歳未満が3.0ポイント低下し、90歳以上から95歳未満が4.1ポイント上昇した。男性の平均年齢は1.4歳上昇し、男女合計の平均年齢でも0.9歳の上昇となった。

平成30年3月31日現在（単位：人）

No.	年齢別	男	女	合計	構成比(%)
1	65歳未満	0	0	0	0.0
2	65歳以上 70歳未満	0	0	0	0.0
3	70歳以上 75歳未満	1	2	3	3.1
4	75歳以上 80歳未満	3	6	9	9.2
5	80歳以上 85歳未満	10	11	21	21.4
6	85歳以上 90歳未満	9	14	23	23.5
7	90歳以上 95歳未満	1	26	27	27.5
8	95歳以上100歳未満	0	13	13	13.3
9	100歳以上	0	2	2	2.0
合計		24	74	98	100.0
最高年齢(歳)		90	105		—
最低年齢(歳)		72	71		—
平均年齢(歳)		83.1	88.9	87.5	—

イ 在籍期間

平均在籍期間は4.1か月と0.1ヶ月上昇した。在籍期間5年を超える利用者の割合が計4.0ポイント上昇したことがその要因となっている。

平成30年3月31日現在（単位：人）

No.	期間	男	女	合計	構成比(%)
1	1年未満	6	13	19	19.4
2	1～2年未満	6	11	17	17.3
3	2～5年未満	5	26	31	31.7
4	5～10年未満	6	19	25	25.5
5	10年以上	1	5	6	6.1
合計		24	74	98	100.0
平均在籍期間		3年4か月	4年8か月	4年1か月	—

ウ 退所状況

長期入院加療による退所が全体の6割を超えているが、年間で21人と昨年度より4人減少した。

退所者の平均年齢は0.9歳若くなり、昨年と同様な傾向である。平均介護度は前年度より0.2ポイントの下降となった。

No.	性別	年齢	退所月	保険者	退所理由	在籍期間	勤続
1	女	101	4月	調布市	入院先で死亡	6年 2か月	5
2	男	86	5月	三鷹市	入院先で死亡	9か月	4
3	男	77	6月	調布市	長期入院加療	3年10か月	3
4	女	95	6月	調布市	長期入院加療	6年10か月	3
5	女	93	7月	調布市	長期入院加療	2年 2か月	3
6	男	83	7月	調布市	入院先で死亡	8年 5か月	4
7	女	88	7月	調布市	長期入院加療	7年 9か月	5
8	女	94	8月	調布市	長期入院加療	4か月	4
9	女	90	9月	府中市	長期入院加療	8か月	5
10	女	74	9月	調布市	長期入院加療	4年 1か月	3
11	女	97	10月	三鷹市	入院先で死亡	8年 0か月	4
12	女	84	10月	調布市	長期入院加療	2年11か月	5
13	女	100	11月	府中市	施設内で永眠	5年 3か月	4
14	女	84	11月	府中市	入院先で死亡	1か月	5
15	女	91	11月	府中市	長期入院加療	3年 3か月	4
16	女	91	12月	府中市	長期入院加療	10年 2か月	5
17	男	88	12月	府中市	入院先で死亡	4年 5か月	5
18	女	89	1月	調布市	長期入院加療	8年11か月	4
19	女	73	3月	調布市	長期入院加療	3年 1か月	5
20	女	80	3月	調布市	入院先で死亡	2年 9か月	5
21	女	80	3月	三鷹市	長期入院加療	5年10か月	5
平均		87.7	—	—	—	4年 6か月	4.3

エ 月別要介護度分布表

要介護度4以上の利用者が約85%以上を占め、特に要介護度5の利用者の割合が8.9ポイント大きく上昇し、平均要介護度4.3となった。

(単位：人)

月	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	平均要介護度
4	0	5	12	42	41	4.2

月	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	平均要介護度
5	0	5	10	40	43	4.2
6	0	5	10	38	44	4.2
7	0	5	9	39	45	4.3
8	0	5	7	40	45	4.3
9	0	5	7	39	45	4.3
10	0	5	8	40	46	4.3
11	0	5	8	39	46	4.3
12	0	5	9	37	48	4.3
1	0	4	11	37	47	4.3
2	0	4	12	36	48	4.3
3	0	4	12	35	46	4.2
構成比 (%)	0.0	4.8	9.8	39.2	46.2	4.3

オ 月別利用実績

8月、10月、3月に入院者が増加したことにより、目標値の96.0%は達成することができなかった。

(単位：日)

月	延べ利用日数	延べ利用可能日数	利用率 (%)
4	2,857	3,000	95.2
5	2,970	3,100	95.8
6	2,835	3,000	94.5
7	2,941	3,100	94.9
8	2,886	3,100	93.1
9	2,850	3,000	95.0
10	2,899	3,100	93.5
11	2,888	3,000	96.3
12	2,923	3,100	94.3
1	3,006	3,100	97.0
2	2,779	2,800	99.3
3	2,907	3,100	93.8
合計	34,741	36,500	—
平均	2,895	3,042	95.2

3 高齢者在宅サービスセンター通所部門

(1) 重点事項への取組

ア 利用者サービスの向上

(ア) 活動内容の充実（各通所事業共通）

6種類の趣味活動、音楽療法、理学療法士によるリハビリに加え、バスハイク、お花見、初詣など利用者に人気の高い外出の機会を多く設けた。

また、年中行事の敬老会や新年会では、地域で伝統芸能などを行っている団体を招いて、今ではなかなか見ることのできなくなった日本の伝統を堪能する機会とした。

地域ボランティアの協力としては、ドッグセラピーをはじめ、アメリカンスクールや子供ピアノ教室の子供たちとの交流会など、癒しの中にも刺激のある活動を取り入れた。

(イ) 困難ケースの積極的受入

精神面や医療面等の理由により、他事業所での利用が困難な利用者から利用相談があった場合は、可能な限り受け入れをするようにアセスメントを行った。結果、他利用者に迷惑をかけてしまうような行動・心理症状によりデイサービスを利用困難と断られた方や脊髄梗塞により半身不随となり医療的処置が必要な方の受け入れを行った。その他、インスリン注射、在宅酸素、人工肛門等の医療的処置必要者の利用も受け入れている。

(ウ) 介護予防・日常生活支援総合事業への対応

平成28年10月から始まった総合事業への移行について、引き続き利用者・家族が混乱しないように調整を行い、総合事業対象者全員の移行を問題なく終えた。

(エ) 社会参加を意識したプログラムの実施（各通所事業共通）

社会参加を意識したプログラムとして、調理会の具材を自分たちで近くのスーパーに買い物に行ったり、野川公園や武蔵野森公園を散策した際には、公園で遊ぶ子供たちと交流を行った。

(オ) 入浴困難者の入浴の実施（各通所事業及び通所入浴事業）

デイサービスの利用目的に入浴サービスを要望する利用者が増えており、登録者約150人中、約40%の方が入浴されている。

また、通所入浴については、高齢者世帯で持病や生活環境等の理由からデイサービスにも行けず、訪問介護も導入できない方の受け入れを行ったものの、登録は3人と利用者数は伸び悩んでいる。

(カ) 安心・安全の配食と安否確認の実施（配食事業）

配食サービスでは、アレルギーや感染症に十分に注意し、4月から10月の気温の高い時期にはブラストチラー（食品冷却装置）を使って食中毒対策をするなど「安心」で「安全」な食事の提供を行った。

また、不在のため合鍵を使用して安否確認を行ったケースは3件であったが、いずれも利用者が外出中だったため、大事には至らなかった。

イ 家族介護者支援の充実

家族間交流の場の提供（各通所事業共通）

家族介護者支援の取り組みに力を入れ、5月に全体家族会、利用者家族が介護の疑問や悩みなどを意見し合う「絆の会」を6月と10月に開催した。6月の絆の会には、精神科医を招いて認知症介護の悩みなどに対し専門的に答えた。

また、家族同伴のバスハイクでは「介護者教室」と称して、屋外での車いすの操作方法など家族の介護技術の向上に努めた。

ウ 安定的な運営

(ア) 利用率の安定（各通所事業共通）

利用希望者については、ケアマネジャーからの紹介後、見学から導入までスムーズに行うことを心かけ、見学時には送迎を実施し家族の負担軽減にも努めた。結果として、60件の新規利用者の導入を行った。

(イ) 曜日増加等の対応（各通所事業共通）

新規利用から数か月が経過し、デイサービスに慣れてきたり、入浴利用の増加等の理由から曜日増加の希望が多いため、新規利用者とのバランスを考慮しながら導入を行った。

エ 安全で安心できるサービスの推進

(ア) 緊急時における適切な対応（全事業共通）

デイサービス利用中に体調が急変したり、転倒によるケガなどが理由で通院、途中帰宅となった利用者は30人おり、その内、救急車を要請したのは3人であった。

最も多い症状は熱発で、続いて一過性の意識消失、血圧の変動などが多くみられた。

(イ) 事故防止・再発防止の強化（全事業共通）

事故報告書やヒヤリハット報告書が上がったケースについては、ミーティングで原因を解明し、朝礼等でしばらくの間、職員間で注意喚起を行い再発防止に努めた。

オ 人材の育成と知識の共有化

(ア) 研修参加によるスキルアップ

外部研修として、「認知症ケアについて」「高齢者医療について」等、25件の研修に職員を派遣しスキルアップに努めた。

また、課内研修会として、看護師が講師となり「感染症予防について」全員が同じ対応できるように行った。

(イ) リーダー職員の育成

高齢者在宅サービスセンターとして、デイサービスとショートステイの共通業務の課題解決について、主任・副主任で話し合いを行い、リーダーとしての視点で組織的に考えられるよう意識を高めた。

(ウ) 総合的サービスの提供

高齢者在宅サービスセンターとして、総合的なサービスを提供できるように月一回「調整会議」を開催して、情報の共有や課題解決などを行い、利用者の満足度アップに繋がるように努めた。

(2) 実績報告

ア 通所介護利用実績（一日の利用定員40人）

年間利用率は、昨年度の77.4%からほぼ変化なく77.5%であった。

今年度も、見学時に送迎サービスを付けるなどの工夫をし、多くの方を迅速に新規利用に繋げることができた。しかし、新規導入のスピードと同等に死去、施設入所、入院、認知症対応型への移行といった理由で終結者が相次ぎ、利用率は横ばいであった。

また近年、送迎時に介助が必要な方が増加し、時間を要してしまうことで時間内に送迎を完了できないことから、空席を埋めたくても埋められないといった現象も利用率に影響を及ぼした。

(単位：人)

月	利用延べ人数	送迎利用者数	入浴利用者数	利用日数(日)	利用率(%)
4	791	1,581	208	25	79.1
5	857	1,709	239	27	79.4
6	823	1,643	222	26	79.1
7	795	1,584	209	26	76.4
8	829	1,654	201	27	76.8
9	823	1,640	194	26	79.1
10	817	1,623	192	26	78.6
11	802	1,595	205	26	77.1
12	750	1,489	206	24	78.1
1	705	1,403	195	24	73.4

月	利用延べ人数	送迎利用者数	入浴利用者数	利用日数(日)	利用率(%)
2	736	1,464	200	24	76.7
3	822	1,636	227	27	76.1
合計	9,550	19,021	2,498	308	77.5
1日平均	31	61.8	8.1	—	—

イ 認知症対応型通所介護利用実績（一日の利用定員12人）

年間利用率は昨年度の71.6%から1.7%微増の73.3%となった。要因としては、10月、12月に通所介護の認知症利用者を速やかに認知症対応型への移行に対応できたことから、僅かではあるが利用率の向上に繋げることができた。しかしながら、3月には3人が死去され、その内の1人は複数回利用されており、年間利用率にもかなり影響を及ぼす結果となった。

(単位：人)

月	利用延べ人数	送迎利用者数	入浴利用者数	利用日数(日)	利用率(%)
4	207	414	87	25	69.0
5	216	430	89	27	66.7
6	226	451	97	26	72.4
7	213	426	86	26	68.3
8	225	449	96	27	69.4
9	225	450	95	26	72.1
10	253	505	119	26	81.1
11	245	490	120	26	78.5
12	243	485	115	24	84.4
1	221	442	114	24	76.7
2	209	418	109	24	72.6
3	222	441	117	27	68.5
合計	2,705	5,401	1,244	308	73.3
1日平均	8.8	17.5	4.0	—	—

ウ 介護保険外（調布市受託）事業利用実績

(7) 通所入浴サービス

延べ利用者は、昨年度の84人に対し、70人と微減となった。今年度、新規利用者は1人であったが、抗がん剤治療のために定期的な入院が必要な利用者であり、コンスタントな利用がないことから、利用率は伸び悩ん

だ。平成30年3月末日の登録者は昨年より1人増え、3人となった。

(イ) 配食サービス

昨年度30,354食に対し、30,869食と515食増加した。新規利用者が多く、定着したことが大きな要因である。

月	通所入浴サービス(人) (1日の定員8人)	配食サービス(食) (1日の食数、昼夕合計200食)
4	5	2,454
5	7	2,501
6	8	2,486
7	7	2,588
8	5	2,685
9	7	2,644
10	4	2,713
11	4	2,634
12	6	2,627
1	6	2,519
2	6	2,388
3	10	2,630
合計	70	30,869
1日平均	0.2	84.8

エ 通所介護要介護度分布表

事業対象者から要介護1までの認定はその時の条件で変わりやすく、この認定の間で行ったり来たりされる方が多い傾向がある。

要介護1については、昨年度、合計2,874人、比率30.1%であったが、今年度は合計3,572人、比率37.4%と要介護1の利用者の変動が最も大きかった。その要因としては、要支援からの認定変更と要介護1の複数回利用が増えたためである。

(単位：人)

月	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	合計
4	12	53	91	282	210	74	49	20	791
5	11	57	98	298	238	92	48	15	857
6	9	59	96	293	214	71	57	24	823
7	8	55	98	278	207	86	43	20	795
8	9	62	97	309	209	99	30	14	829
9	4	68	94	326	186	100	31	14	823

月	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	合計
10	10	64	88	317	194	106	25	13	817
11	7	71	81	310	193	86	44	10	802
12	6	58	80	288	185	83	39	11	750
1	8	58	69	285	159	73	42	11	705
2	7	56	84	287	171	74	50	7	736
3	4	71	96	299	202	77	65	8	822
合計	95	732	1,072	3,572	2,368	1,021	523	167	9,550
比率(%)	1.0	7.7	11.2	37.4	24.8	10.7	5.5	1.7	—
1日平均	0.3	2.4	3.5	11.6	7.7	3.3	1.7	0.5	31

オ 認知症対応型通所介護要介護度分布表

昨年、528回、20.0%を占めた要介護1が今年度、379回、比率、14%と減少した。これは昨年度、281回、比率10.6%であった要介護4が今年度、410回、比率15.2%と増大したことに関連しており、心身状態の悪化で軽度の要介護度だった方が認定の際、重度の要介護度に変ったことに起因する。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	合計
4	0	0	37	70	49	11	40	207
5	0	0	32	77	55	11	41	216
6	0	0	31	80	53	19	43	226
7	0	0	33	74	55	16	35	213
8	0	0	32	67	66	17	43	225
9	0	0	31	79	56	19	40	225
10	0	0	31	67	71	46	38	253
11	0	0	31	57	67	49	41	245
12	0	0	34	62	58	51	38	243
1	0	0	28	67	50	56	20	221
2	0	0	29	65	37	53	25	209
3	0	0	30	69	27	62	34	222
合計	0	0	379	834	644	410	438	2,705
比率(%)	0	0	14	30.8	23.8	15.2	16.2	—
1日平均	0	0	1.2	2.7	2.1	1.3	1.4	8.7

4 高齢者在宅サービスセンター短期入所部門

(1) 重点事項への取組

ア 更なる個別ケアの充実

介護記録マニュアルを現場に浸透させ、利用者の変化や課題に沿った事実に基づく記録の充実を図った。サービス終了前の電話による家族への経過報告に加え、書面（ご利用の様子）による報告を作成することで利用時の状況をきめ細かに伝えることができた。

積極的な情報収集からサービス水準の向上に努めるため、年間で28件のサービス担当者会議に出席した。サービス担当者会議では、家族、ケアマネジャーをはじめ、関係機関が一堂に会する場となるため、利用者の場面に応じた姿を確認できる機会となり、在宅生活を継続していくための関係機関が統一した個別性の高い目標に繋げることが出来てきている。

日々変化する利用者に対し、家族との連絡や情報交換を密にすることで、利用者の変化に応じた短期入所生活介護計画書の作成と、これを基にした個別性の高いケアに努めてきた。それに加え、家族の事情や負担に合わせケアマネジャーと相談しながら随時利用日数の延長などにも積極的に対応した。

リスクマネジメントにより、その時々合った適切な介護と事故防止に努めるため、事故・ヒヤリハット速報というショートステイ独自の様式を作成し、いち早く事故の発生と仮の対応策を職員に周知できるよう工夫した。事故発生後に作成する報告書は直ぐに書けるものの、対応策の検討も他職種の様々な意見を反映させ、迅速な対応をとることで、事故直後から発生する課題に対し、二次的事故の防止にも役立っている。

年々変化する感染症対策に対応するため、11月にノロウイルス、インフルエンザに特化した勉強会を行い対応の確認を行った。

こうした中、2月に家族とともに外出した利用者がノロウイルスを発症する事案が発生し、職員、利用者合わせて7人が罹患する事態となったが、勉強会で確認した感染症対策、居室調整、保健所へ対応の確認などを行った結果、短期間での終息宣言に繋がった。

一層のサービス向上を図るため、全利用者、家族を対象に満足度調査を行った。今年度は、家族と共に利用者の姿を24時間把握している強みを活かし、個別介護相談会の実施についての意見を求めた。一定のニーズの確認が出来たため、内容を精査し次年度に実施することとした。

また、昨年度の調査で「どんな方に介護していただいているのかを知りたい」という意見が聴かれていたことから、年3回発行している広報誌であるショート便りに職員紹介を掲載した。

イ 人材育成への取組

ショートステイ、デイサービス事業それぞれの在宅サービスとしての相互理解を深めるため、主任、副主任レベルでの会議を開催し、互いの視点を活かした課題の抽出や対応の検討を随時行えるようにした。

委員会や課内担当業務を円滑に進められる力を養い、チーム力の強化に繋げるため、経験者と未経験者をペアリングし、教え、教えられる立場の経験を積むことで個々のレベルアップを目指した結果、互いを尊重し合える環境に変わってきている。

感染症対策を含め様々なリスクに対応するため、5月18日(木)「爪切り介助」、8月18日(金)「リスクマネジメント」、11月17日(金)「感染症対応」、2月16日(金)「図上消防訓練」と計4回の勉強会を実施した。それぞれその時々で課題となっていた内容を題材としたことで、参加者も多く実りあるものとなった。

ウ 安定的な事業運営

平成27年度の介護保険制度改正以降、重度者が次々に施設入所され、ショートステイ利用者の利用者層は軽介護状態化し、長期利用から短期利用ニーズへと変化し、利用率の低下に拍車をかけた。このことから、より一層の新規利用者の導入に力を注いだ。

その結果、平成28年度39人の新規利用者数に対し、69人の新規利用者の導入になった。

各居宅介護支援事業所をはじめ、家族にも空床情報を日々提供することで、予約以外の利用の問い合わせや実際の利用頻度が増してきている。特に同居家族の緊急入院で早急な対応が望まれる場合などでは、柔軟な受け入れを行った。

空床を活かし、調布市、調布警察署や地域包括支援センターなどから寄せられた保護や虐待等による緊急利用の要請に対し、幅広い受け入れを行った。

入院や体調不良などで利用直前のキャンセルによる利用率の低下を可能な限り防ぐため、ケアマネやデイサービスなど情報の共有に努めた。また、早めに利用の可否を家族やケアマネと相談していくことで、キャンセル後の日程を利用し、緊急利用や突然の利用延長に対応できるようになってきている。

(2) 実績報告(ショートステイ：利用定員20人)

ア 利用実績

新規利用者の受け入れに全力を注いだ結果、平成28年度の39人に対し69人の新規利用に結び付けることが出来た。しかしながら、廃止利用者も平成28年度の20人から34人に増加する形となった。この中には新規利用者から定期利用に結び付いた利用者の施設入所による廃止も複数含まれており、このことが利用率の低迷に大きく影響している。

(単位：人)

区 分	新規利用者	廃止利用者	利用実人数	利用延べ人数	稼働日数(日)	月毎の利用率(%)
4月	5	3	61	514 (※)	30	85.7
5月	5	3	55	503 (※)	31	81.1
6月	11	3	65	507	30	94.5
7月	8	4	70	558	31	90.0
8月	5	1	63	548	31	88.4
9月	7	1	63	484	30	80.7
10月	7	4	69	504	31	81.3
11月	2	4	68	542	30	90.3
12月	4	1	72	570 (※)	31	91.9
1月	2	4	62	523	31	84.4
2月	3	2	59	483	28	86.3
3月	10	4	66	521	31	84.0
合 計	69	34	773	6,257	365	85.7

※ 4月の利用延べ人数には、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「2人分」を含む。

※ 5月の利用延べ人数には、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「4人分」を含む。

※ 12月の利用延べ人数には、「調布市生活支援ショート」による利用者（介護保険非該当）の「2人分」を含む。

イ 要介護度分布表

平成28年度は要支援1～要介護1の利用者が5.5%だったものが平成29年度は17.2%となっている。特に要介護1の伸びが大きく、10.6ポイント増加する結果となった。対して要介護2～要介護5はいずれも減少しており、特に要介護5は対前年比で平成28年度5.2ポイント、平成29年度3.5ポイント減少する結果となった。

(単位：人)

月	要支援1	要支援2	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合 計
4	0	0	49	139	165	123	36	512
5	0	0	46	144	167	121	21	499
6	0	0	57	134	166	119	83	507
7	0	0	74	140	196	122	26	558
8	0	0	95	126	183	105	39	548
9	0	0	91	130	142	83	30	484
10	0	16	99	84	130	125	50	504
11	0	12	111	105	148	140	26	542
12	0	16	116	116	129	139	52	568
1	0	17	87	94	120	154	51	523

月	要支援 1	要支援 2	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5	合 計
2	3	17	82	71	90	162	58	483
3	4	19	55	117	118	162	46	521
合計	7	105	962	1,400	1,754	1,555	466	6,249
比率	0.1%	1.7%	15.4%	22.4%	28.1%	24.9%	7.4%	100%

5 地域支援課

(1) 重点事項への取組

ア 地域包括支援センター

(7) 総合相談支援業務の充実

総合相談窓口として、高齢者やその家族が安心した在宅生活を継続できるよう、介護保険サービスだけではなく、調布市の一般施策、民間サービスなど様々なサービスを活用し、支援を行った。療養相談に対しては、入院早期の段階から相談があり、医療機関と連携し円滑な在宅調整を行った。

複合問題や虐待ケース等の困難ケースについては関係者会議等を開催し、市の担当者・関係機関と連携しチームとして支援を行った。

指定介護予防支援事業については、新規の要支援判定者のサービス導入が非常に多かった。

また、介護度が「要支援」から「要介護」へ変更になるケースも多く、利用者が混乱しないよう丁寧な説明を行い、サービスの利用調整を行った。

認知症地域支援推進事業については、市と推進員を中心に初期集中支援チームと認知症疾患医療センターとの連携について、具体的な動きについて検討した。

いずれも、地域に精通し相談業務に熟練したスタッフを確保しており、安定した事業の運営ができた。

(イ) 関係機関との連携強化

年3回の「地域ケア会議」を通し、地域住民、関係機関との意見交換や地域医療機関と福祉関係者で会議を行うことで、医療・福祉の役割分担を明確にし、連携の強化を図ることができた。医療・介護報酬同時改定にかかわるテーマも上げ、相互理解を深めることもできた。いずれの会議も50人前後の参加者を得ることができた。

地域の支援機関との連携では、調布市社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカーとの定期会議により市民やコミュニティの対応や支援

を協働で行った。

本年度は特に医療・福祉の連携強化の一環として、調布市医師会や東山病院、多摩川病院、青木病院認知症疾患医療センター等の医療機関主催の連絡会や勉強会に積極的に参加し、交流を深めつつネットワークの強化をはかることができた。

(ウ) 介護保険改正への準備と対応

12月に介護予防・日常生活支援総合事業のみなし事業が廃止された。このことをきっかけに要支援のサービス受入を終了した事業所が数件あった。当該事業所の利用ケースに対して、ニーズや希望を確認しつつ、円滑に他の事業所への移行を行うことができた。

イ 居宅介護支援事業所

(ア) 経営の安定

ケアプラン作成数については、1年間を通じて新規ケースや困難ケースを積極的に受け入れ増加を図ったが、入院・登録廃止等も多く、非常に出入りが多かった。平成28年度と比較して作成プラン数を減らす結果となった。

本年度も継続して「特定事業所加算Ⅱ」を算定することができた。今後も必要な算定要件を厳守し、質の高いケアマネマネジメントを提供していく。

また、新たに算定要件のひとつとなった介護支援専門員の実践研修の実習については3人の方を受け入れた。

収支状況については、「特定事業所加算Ⅱ」を継続して取得できたことで安定した。

(イ) 介護支援専門員の資質の向上

平成30年度後半から本格実施されるケアプラン点検事業については、本年度も継続して取り組んだ。具体的には、毎週実施しているケアマネ会議の中で事業所の主任介護支援専門員が中心となり、個々の担当ケースのケアプランを持ち寄り点検した。ケアプランの表現方法、サービスの必要性や支援の方向性等を話し合うことができた。

また、本年度新たに1人の職員が主任介護支援専門員の研修を修了し、主任介護支援専門員2人体制となった。

(ウ) 地域包括支援センターとの連携強化

新規の介護相談や退院調整にかかる相談については、介護認定の結果が確定していないケースが多く、認定結果が「要支援」・「要介護」どちらになっても対応できるよう併設の地域包括支援センターと協働で対応

することが多かった。

また、併設している地域包括支援センター職員と担当ケースについての情報交換を行ったり、相談等を行ったりといろいろな場面で連携・協働して支援を行った。

ウ 訪問介護事業所

(ア) 経営の安定

事業所PR・空き状況等については、ヘルパーの派遣状況を常に確認し、月毎に担当介護支援専門員に提出するモニタリング記録（サービス実施記録）を渡すとともに空き状況も一緒に伝えた。

また、1年間を通じて新規ケースの受け入れや、回数の増加等積極的に調整を図った。しかしながら、利用者の入院・登録廃止等も多かったことと、登録ヘルパーの退職が相次ぎ、なかなか総援助時間を増やすことが出来なかった。その結果、大きく目標を下回ってしまった。

(イ) 人材の確保と育成

ハローワーク、法人のホームページ、デイサービス送迎車の掲示等様々な媒体を使って人員の募集を掛けた。

また、市社協が実施している介護職員初任者研修の修了式にも参加し、事業所のPRを行い、新規で1人雇い入れることができたが、引っ越し、精神的なことや年齢など理由は様々であるが4人の登録ヘルパーの退職が相次いだ。引き続き、人材確保を最重要課題として取り組んでいく。

ヘルパー研修については、施設内研修にも参加できるようにヘルパー会議の日程等を調整しつつ、独自に「感染症予防対策」、「事例検討」、「介護演習（ベッド上での着替え・シーツ交換）」等を企画、実施した。参加したヘルパーは真剣に取り組んでおり好評であった。

(ロ) 利用者・家族のニーズに沿ったサービスの提供

利用者と家族のニーズを把握するために、体調が変化した時や初回の時等サービス提供責任者が必ず訪問し、本人や家族の話を聞き、訪問介護計画書に反映させた。

また、開催されたサービス担当者会議には必ず出席し、利用者ごとの課題や利用者や家族の意向を確認した。

(ハ) 平成30年の介護保険改正に向けての準備

説明会に参加するとともに、併設の地域包括支援センターと情報を共有した。

(2) 実績報告

ア 地域包括支援センター 区分別相談件数

地域性から来所相談数は少ないが、訪問による対応が多いことで生活実態が把握しやすい。

(単位：件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
電 話	144	178	148	167	166	111	141	139	139	136	133	167	1,769	147.4
来 所	23	24	17	17	28	18	15	17	20	16	24	21	240	20
訪 問	126	127	120	116	140	92	85	116	104	77	82	86	1,271	105.9
その他	1	2	3	1	6	1	0	8	7	4	6	9	48	4
合計	294	331	288	301	340	222	241	280	270	233	245	283	3,328	277.3

イ 地域包括支援センター 相談内容別件数

「保健医療」の相談については、診療報酬改定の影響もあってか、近隣病院から早期の退院調整の相談が増えている。

「介護・認知症」相談ケースでは、「経済・住宅問題」も並行して問題を抱えているケースが増えた。

また、家庭不和や精神疾患・障害のある家族を抱えるケース等の「家族問題」については近年、急激に増えており、介護相談は複雑となっている。

(単位：件)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
保健医療	117	125	129	132	129	90	105	133	112	97	114	130	1,413	117.8
介護保険	55	63	57	66	79	37	80	65	39	64	69	82	756	63
予防給付	113	108	132	101	96	87	78	77	62	41	42	48	985	82
総合事業	43	69	53	60	101	55	52	73	66	62	70	90	794	66.1
ケアマネ支援	11	8	7	7	7	7	13	6	4	4	18	20	112	9.3
介護相談	23	14	23	28	23	17	19	22	15	12	6	20	222	18.5
認知症相談	17	23	21	20	18	5	24	17	16	12	14	11	198	16.5
経済・住宅問題	17	18	18	20	21	16	14	18	25	15	16	6	204	17
家族問題	23	27	18	30	27	19	36	20	24	27	27	37	315	26.3
権利擁護 (成年後見)	1	1	3	5	1	1	5	0	13	2	2	2	36	3

権利擁護 (地権・その他)	1	1	1	0	0	0	3	0	0	1	2	7	16	1.3
その他	38	48	39	34	69	29	31	62	58	52	37	57	554	46.2
合計	459	505	501	503	571	363	460	493	434	389	417	510	5,605	467.3

ウ 地域包括支援センター 調布市一般施策相談件数

在宅ケースの重度化から「日常生活用具」の防水シーツの申請は21件と非常に多かった。

また、独居高齢者の増加に伴い、緊急通報システムの申請も20件と非常に多かった。配食サービスについては、民間事業所の安否確認、買い物等の付加サービスもあり前年同様に新規導入は少ない状況である。

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
配食サービス	4	4	7	5	9	2	2	2	1	6	6	4	52	4.3
日常生活用具	4	5	5	6	2	6	2	6	4	3	7	1	51	4.3
おむつの給付・助成	7	18	11	7	15	4	6	8	8	10	8	6	108	9
緊急通報システム	3	12	5	3	8	16	4	13	1	2	8	2	77	6.4
徘徊探知器	1	3	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	8	0.7
その他	1	8	7	2	5	7	0	6	10	6	4	4	60	5
合計	20	50	36	23	40	35	14	36	25	27	33	17	356	29.7

エ 地域包括支援センター 実態把握件数

月平均約80.2件（前年56.2件）の実態把握を行った。新規相談の増加に加え、退院支援や一般施策の相談の増加により、実態把握数は例年より多かった。新規相談に対しては迅速に訪問し、ニーズの確認やサービス調整に必要な実態把握を行った。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
実態把握	99	86	92	92	103	78	64	75	80	51	58	84	962	80.2

オ 地域包括支援センター 見守りネットワーク 連絡件数

通報は、隣人・知人からが最も多く、次いで民生委員によるものが多い。医療機関からの通報も増え、「みまもっと」PR活動の成果を感じることがあ

来た。

PR活動として、サロン・老人会・自治会等の住民アプローチを積極的に行った。広報紙を4月・9月・1月の年3回発行し、市民・地域の関係機関に記事の取材・配布をすることでもPR活動を行った。調布中・石原小・調布5中での認知症サポーター養成講座でも事業のPRをすることができた。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
通 報	2	6	3	2	5	5	2	6	4	1	2	7	45	3.8

カ 地域包括支援センター 予防プラン作成数

(介護予防支援費・介護予防ケアマネジメント)

予防プランは、新規介護予防支援の導入と並行し、介護給付への移行（居宅介護支援事業所への引き継ぎ）ケースが多く、センター業務の半分近いウエイトを占めている。

福祉用具貸与や訪問看護のサービス併用者は多く、「介護予防支援費」のプランが総合事業単体の「介護予防マネジメント」を、若干上回っている。

外部の居宅介護支援事業所への委託率は、介護予防支援を受託の件数を制限する事業所も増えており、市全体として委託率が伸びない状況にある。

介護予防支援費

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
直接作成	83	80	80	78	72	68	66	64	61	64	59	57	832	69.3
委託作成	30	28	26	26	25	25	25	26	24	23	24	25	307	25.6
合計	113	109	106	104	97	93	91	90	85	87	83	82	1,139	94.9

(委託率27%)

介護予防マネジメント費（事業対象者を含む）

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
直接作成	49	54	63	64	70	78	78	77	81	76	73	75	838	69.8
委託作成	5	7	8	12	15	17	18	20	17	20	17	17	173	14.4
合計	54	61	71	76	85	95	96	97	98	96	90	92	1,011	84.3

(委託率17%)

キ 居宅介護事業所の居宅サービス計画書作成件数

積極的な新規の獲得に努めたが、入院ケースや終結ケースも非常に多く、
 昨年度1,582件と比較すると年間1,496件と大きく減少してしまった。
 た。

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
国保連請求*1	125	126	125	128	127	124	125	128	126	122	119	121	1,496	124.7
請求外相談*2	6	3	3	4	6	4	2	2	3	4	6	4	47	3.9

※1 予防プランを含む。

※2 請求外相談とは、新規や入院等で介護請求が発生しなかったケース。

ク 居宅介護支援事業の要介護・要支援認定調査件数

認定調査件数は、昨年度の96件と比較して、18件減となった。

また、調布市民のほかに、市内の有料老人ホーム等に入所をしている他県
 の方の認定調査も実施した。(神奈川県1件)

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
認定調査	6	7	8	8	6	6	6	5	4	11	3	8	78	6.5

※ 施設認定調査含む

ケ 訪問介護事業の訪問介護派遣状況

訪問介護派遣時間は、1年間を通じて、回数増加や積極的な新規の受け入
 れ等を行ったが登録廃止も多く追いつかない状況であった。

前年度年間6,843時間と比較すると6,233時間と大きく減少して
 しまった。

(単位：時間)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
介護保険派遣時間	523	560	496	450	502	464	496	474
障害サービス派遣時間	42	52	46	49	43	35	40	41
介護保険外派遣時間	16	13	14	15	16	15	15	15
訪問介護派遣時間合計	581	625	556	514	561	514	551	530

下段に続く

区分	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
介護保険派遣時間	451	389	361	374	5,540	461.6
障害サービス派遣時間	45	42	45	48	528	44.0
介護保険外派遣時間	14	9	12	11	165	13.4
訪問介護派遣時間合計	510	440	418	433	6,233	519

※ 派遣時間については、分の単位30分以上を切り上げて1時間とし、30分未満は切り下げて計算している。